大学図書館職員短期研修　　2015年10月6日(火)／12月1日(火)

効果的なグループ討議法

ファシリテーター

岩田好司

久留米大學
KURUME UNIVERSITY

はじめに：研修の趣旨と目標

- 趣旨

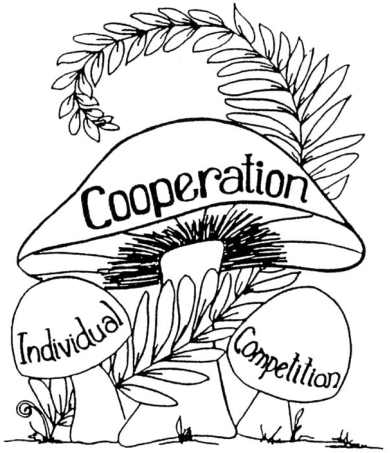
  協同の観点から、効果的なグループ討議の仕方、させ方（ファシリテーション）を学び、実践する。

- 学習目標

1. 協同に基づくグループ討議の考え方や技法を協同学習（話し合い学習）を用いて学び、理解する。
2. 協同によるグループ討議を実践できる。
3. 身に付けた技法を実際に使って教育ファシリテーション（話し合い、学び合いを促進すること）ができる。
4. 協力して学ぶ効用(喜びや楽しみ)を実感する。

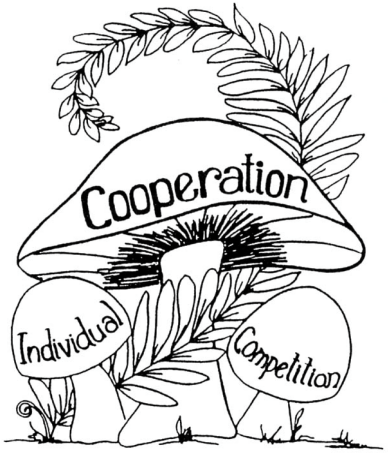
研修の見通し

1. グループ討議の環境作り(30分)
2. 協同によるグループ討議(20分)
3. 協同による意思決定(25分)
4. グループ討議の実践(50分)
5. ふりかえり(15分)



1. グループ討議の環境作り

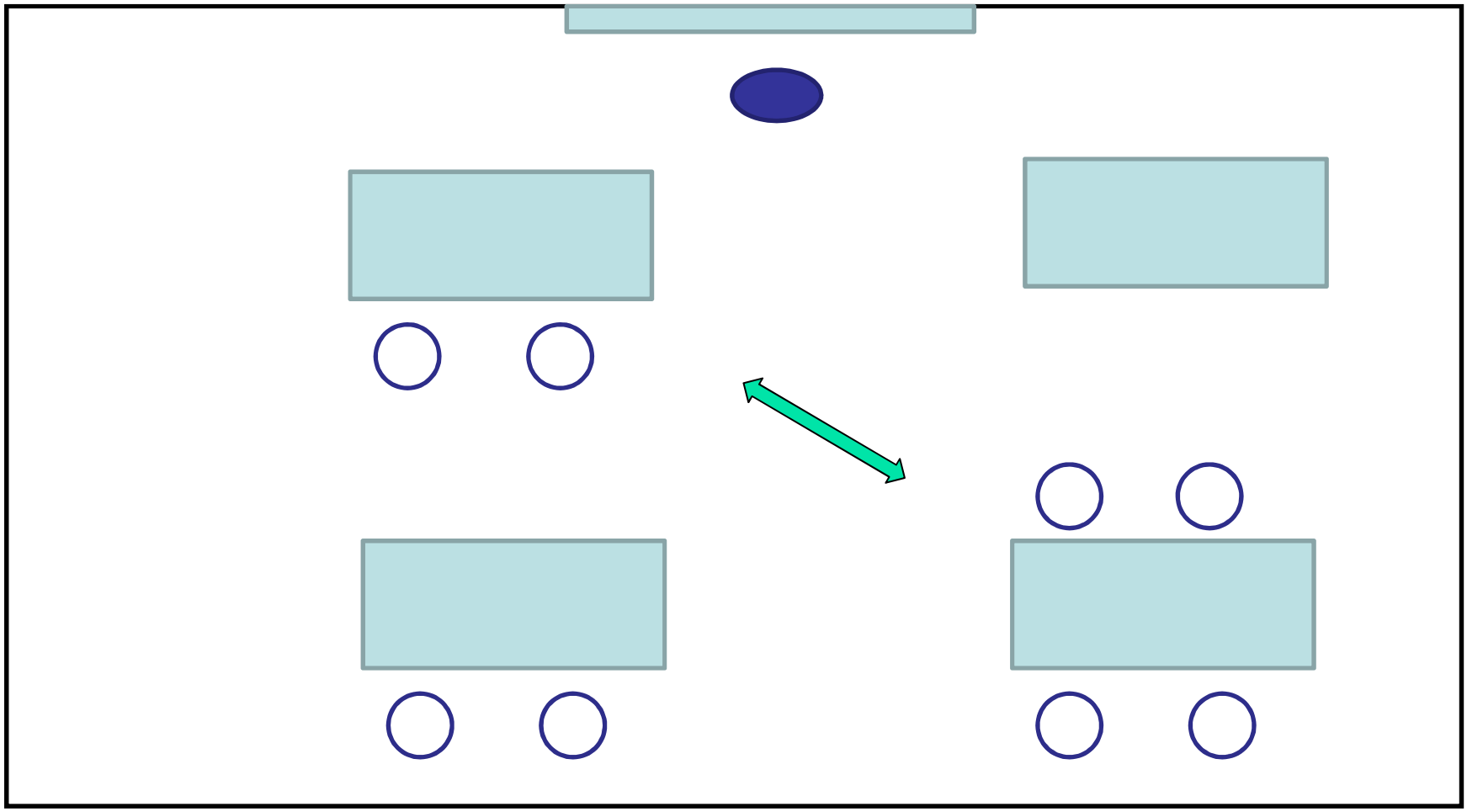
- グループ編成
- 仲間作り



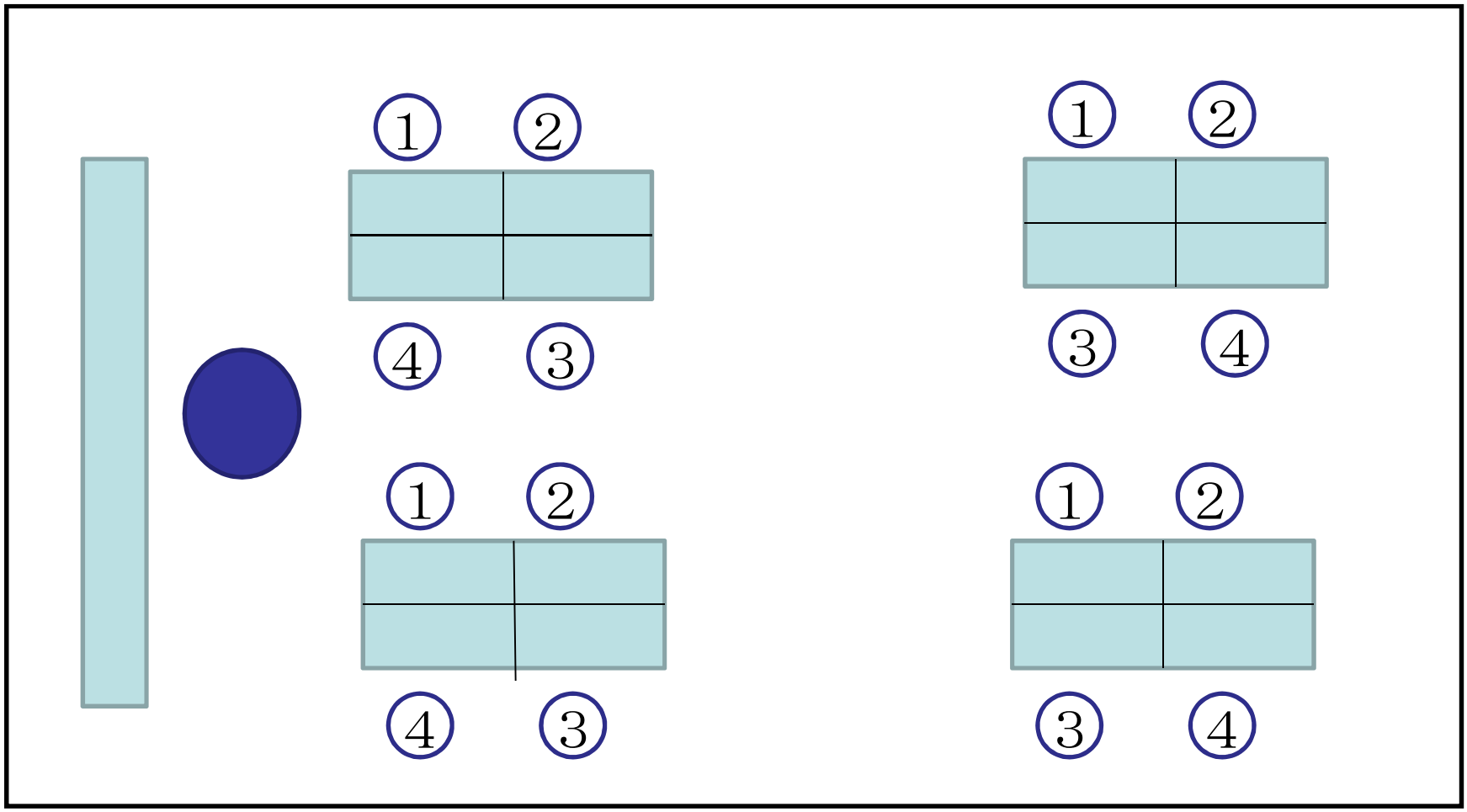
グループ編成

- 教室のアレンジ
  - 講義形式の配置
  - グループ学習の配置
- 何人グループ？
  - 異質性（多様性訓練）
  - 知らない男女交互に4人
- 編成方法

講義形式とグループワーク



講義形式とグループワーク



ファシリテーターの自己紹介

- 岩田好司(イワタ　ヨシノリ)
  - 所属:久留米大学外国語教育研究所
  - 教育研究領域:外国語教育学(フランス語)・異文化間コミュニケーション論・協同教育・ホリスティック教育・プロセス指向心理学(プロセスワーク)
  - 住んでいるところ:
  - 好きな食べ物:
  - 研修への期待:

仲間作り

- 手順

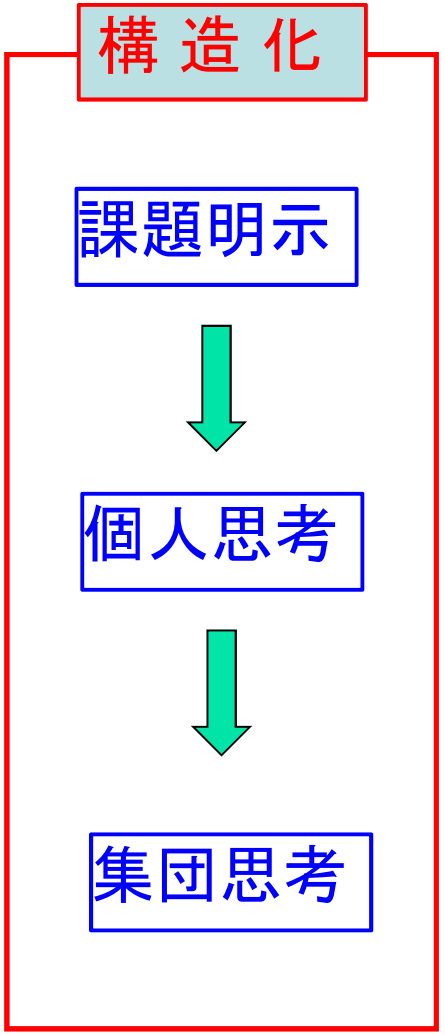
1. 6人組で行います(①~⑥を決める)。
2. 各自、以下の4項目の自己紹介を考える(1分)。A.氏名と所属、B.住んでいるところの紹介　C.好きな食べ物　D. 研修への期待
3. ①の人から自己紹介を始める(1分程度)。終わったら②がそれを復唱する(エコーイング:メモ禁止)。終わったら①に正確かどうかを尋ねる。
4. 以下同様に②、③、④…と回します。技法:“ラウンド＝ロビン”)。③が全体のタイムキーパー。
5. 時間が余ったら雑談してください。

技法の説明:「ラウンド=ロビン」(順番に話そう)

- 手順

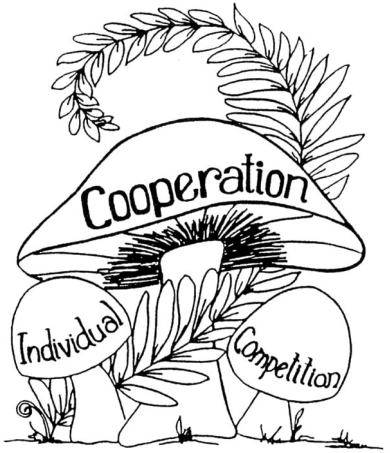
1. 教師は複数の答えのある課題や質問を与える。
2. 個人思考の時間をとる。
3. グループ内で、順番に(だいたい同じ時間を使って)口頭で答えや考えを述べていく。
4. 時間が余ったら、皆で話し合う。

- 注意事項:①傾聴する　②さえぎらない　③心のノート
- 効果:参加の平等性を確保する。「小さな声」を聴く。



研修の見通し

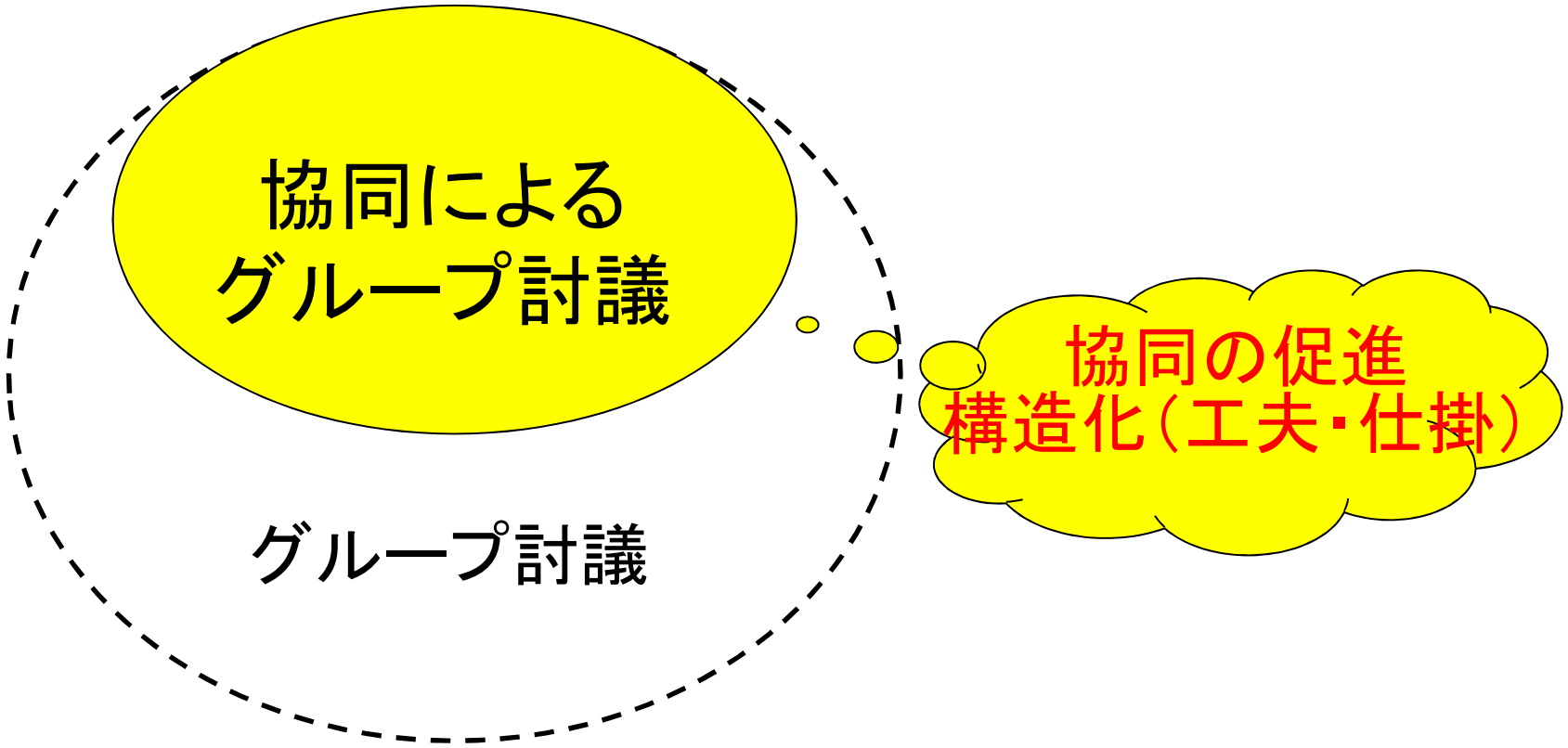
1. グループ討議の環境づくり
2. 協同によるグループ討議
3. 協同による意思決定
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



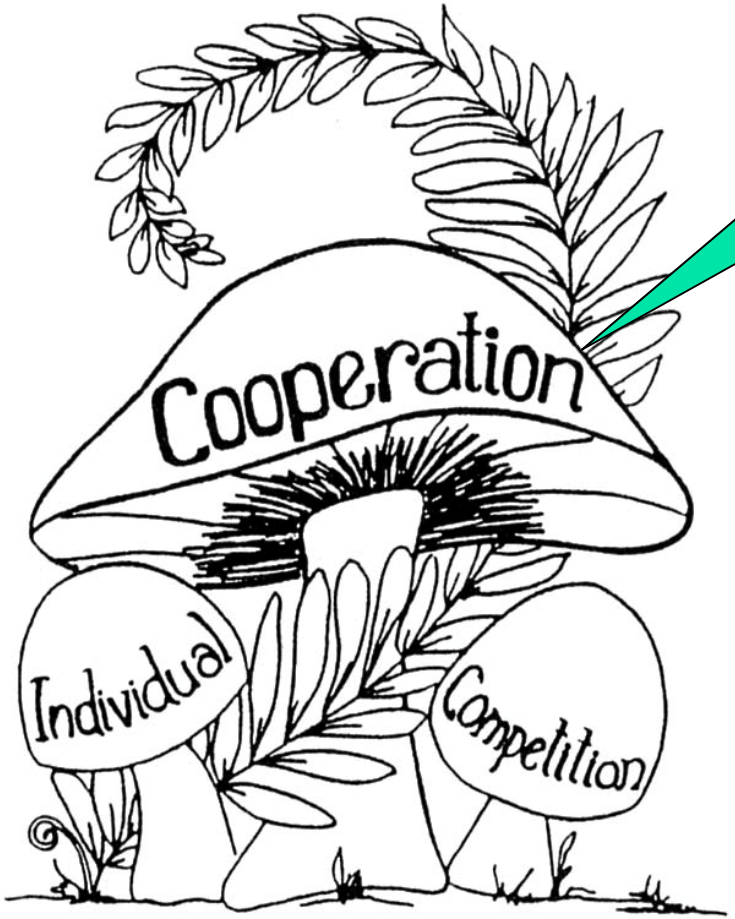
2. 協同によるグループ討議

- 協同によるグループ討議
- 協同の考え方
- 協同を促進するための工夫
- 確認タイム

協同によるグループ討議



個別、競争、協同：協同の理念
こころ、教室、社会、葛藤解決（話し合い）



協同のソフトスキル：
「1人は皆のために、
皆は1人のために」

[出典]：Johnson&Johnson, Holubec (1988) *Advanced cooperative learning*.

協同を促進するための工夫

1）互恵的協力関係（他のメンバーが目的を達成できない限り、自分の目的も達成できない関係）を生みだす工夫

- 目標の共有
- 役割分担（進行役、書記、スケジュール係、「ありがとう」係、観察・メタコメント係、発表係）
- 学習資源（情報）の共有
- 作業自体に埋め込まれた協力

2）個人の責任を確保するための工夫

- 手順や役割り（ルール）の明確化（「グループの誰が当たっても答えられるようにしてください」）
- 平等参加を指示（「発言量が平等になるように配慮してください」）
- ランダムに当てる
- 個別テストを行う

確認タイム

- 課題:「協同を促進するための工夫」を説明する。
- 手順
  1. 個人思考(1分間)
     - 自分の言葉で説明できるようになる。
  2. 集団思考(ペアで確認、2分間)
     - お互い話し合って理解を深める。
  3. 誰かが話し合いの内容をクラス(グループ)に報告する。

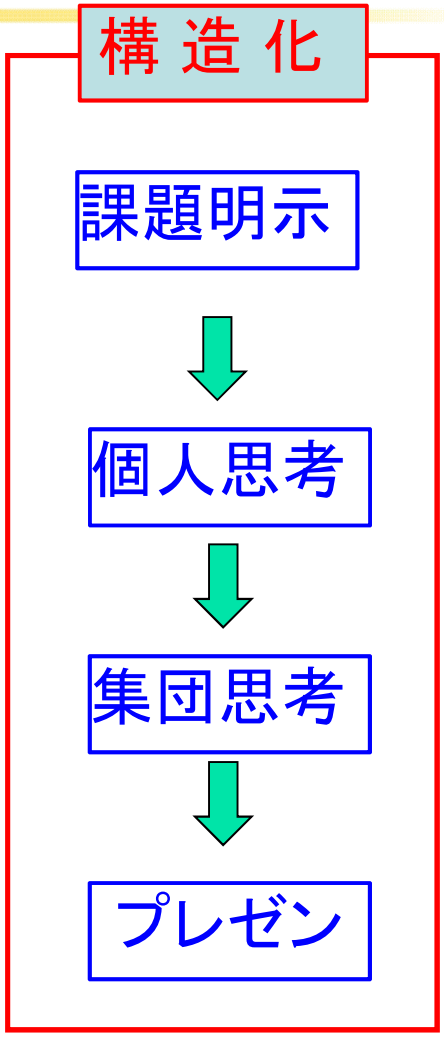
＊技法“シンク＝ペア＝シェア”

技法の説明：シンク＝ペア＝シェア

- 手順

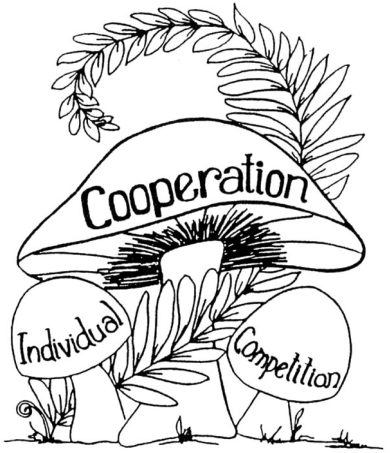
1. 教師が複数の答えが可能な問題を提示する。
2. 個人思考の時間をとる（Think）
3. ペアで話し合う(Pair)
4. 教師が無作為に当てる。当てられた学習者は、ペアで話し合ったことをクラス(グループ)に発表する(Share)

- 効果：個人の責任の明確化。



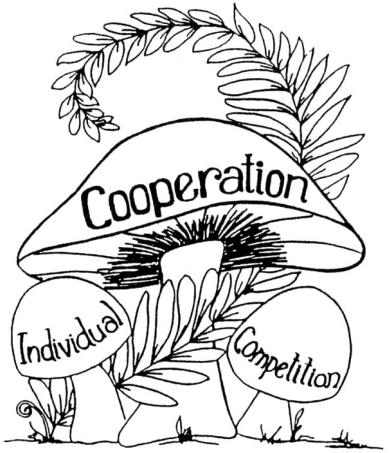
研修の見通し

1. グループ討議の環境作り
2. 協同によるグループ討議
3. **協同による意思決定**
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



3. 協同による意思決定

- 互恵的討議による意思決定
- エクササイズ
- 質問タイム



互恵的討議による意思決定

- コンセンサス法：互いに主張し合い、傾聴し、受容し合い、納得して結論に至る。自分のため、相手のため、みんなのためを考える互恵的＝協同的意思決定。

- コンセンサス法の留意点
  1. 納得できるまで話し合う。意見を変える場合はその理由をメンバーに説明する。
  2. 安易な妥協、取引、統計、多数決はしない。
  3. 自分の意見を通そうとして、異なる意見を排除しない。
  4. 少数意見を尊重する。なぜそう思うのかをよく聴き、みんなで検討する。

＊技法：好きなだけ読み、いっしょ読み

エクササイズ

- 課題：次の項目は討議の留意点です。まず、各自、項目の優先順位（ベスト3）とその理由を思考しなさい。次に、グループのベスト3をコンセンサス法によって決定しなさい。誰が当たっても理由を説明できるように配慮しなさい。

1. 自分の実感や体験に基づいて対話する
2. 参加者はすべて対等である
3. 他者に対する先入観を捨てる
4. 他者との対立やズレを積極的に見つけ展開する
5. 自他の意見が変容する可能性に対して常に開かれている

出典：中島義道『＜対話＞のない社会』PHP研究所

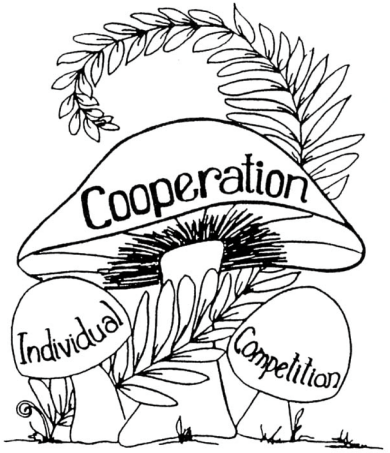
質問タイム*

- 課題：今までのところで、腑に落ちていない点を整理する。
- 手順
  1. 個人思考
     - 腑に落ちていない点をメモする。
  2. 集団思考
     - ペアで話し合う

*技法：“TTT（Team Then Teacher:先生に聞く前にグループメンバーに聞こう）”

研修の見通し

1. グループ討議の環境作り
2. 協同によるグループ討議
3. 協同による意思決定
4. **グループ討議の実践**
5. ふりかえり



4. グループ討議の実践

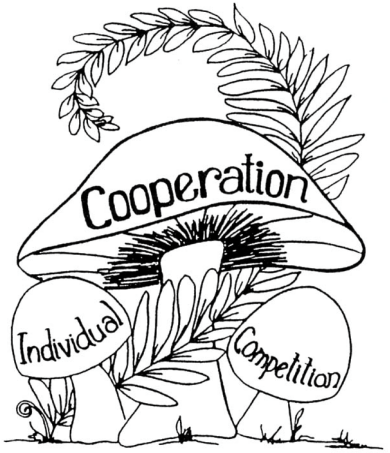
- 課題：各人のアイデア（考え）を分類・整理し、最終プレゼンのタイトル（サブタイトル）を決定する。
- 手順：

1. [個人思考]：「発表要旨」などを参考にテーマに関する自分のアイデア（考え）を書き出す。Post it一枚に一項目。質より量。後でも追加可。（5分）
2. [集団思考]：全員でPost itを模造紙上に分類整理していく。まとまりごとに、その内容をもっともよく表す、カテゴリー名をフェルトペンで書く。カテゴリー間に関係や動きがあれば線や矢印で結ぶ。（15分）
3. コンセンサス法を使って、プレゼンのタイトル（サブタイトル）と班名を決定する。（10分）。
4. プロセスと結果の発表。
5. わかちあい。

＊技法：「アフィニティ＝グルーピング」（バークレイ他, 2009）

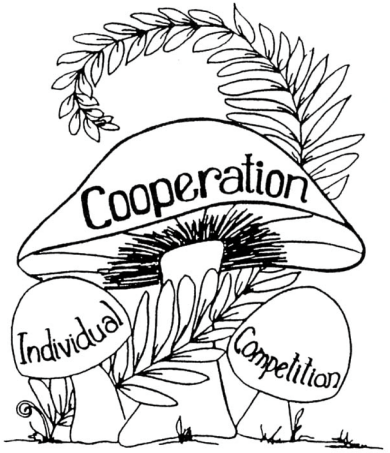
研修の見通し

1. グループ討議の環境作り
2. 協同によるグループ討議
3. 協同による意思決定
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



協同を促進する工夫（技法）

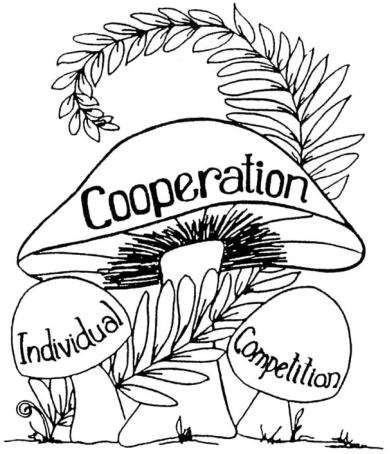
1. 傾聴とミラリング
2. ラウンド＝ロビン（順番に話そう）
3. シンク＝ペア＝シェア
4. 好きなだけ読み、いっしょ読み
5. コンセンサス法（納得法）
6. TTT（質問タイム）
7. アフィニティー＝グルーピング



5. ふりかえり(二重のふりかえり)

- 課題:研修の学び、グループ活動をふり返る。
  - 学んだ内容の中で、もっとも印象に残っている内容を一つ紹介する。
  - グループで学んだ感想やグループワークの改善点を述べる。ともに学んだ仲間に感謝する。

- 方法
  - 個人思考(1分間)
  - 集団思考(1分X6:③がタイムキーパー)
    - 技法 “ラウンドロビン”

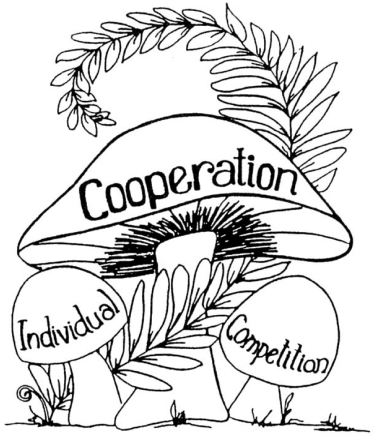


これからの学習のために

- 協同学習ワークショップ(ベーシック、アドバンス)
  - 日本協同教育学会: http://jasce.jp/1031workshop.php
- 書籍
  - ジョンソン他 (2001),『学生参加型の大学授業』, 玉川大学出版部.
  - ジェイコブズ他 (2005),『先生のためのアイディアブック:協同学習の基本原理とテクニック』, 日本協同学会.
  - バークレイ他 (2009),『協同学習の技法:大学教育の手引き』, ナカニシヤ出版.
  - ジョンソン他 (2010),『学習の輪』,二瓶社.

- ともに学べたことに感謝いたします。

ありがとうございました。



岩田好司